

教師の意識と児童生徒の意識の「ずれ」から、児童生徒の側に立った見届けの在り方を考えよう。

8月に文部科学省から示された全国学力・学習状況調査の結果公表を受け、各学校において自校の児童生徒の学力や学習状況等の結果を分析し、改善方策を立て実施しているところです。以下の事項について、今一度自校の状況を見つめ直し、新たに改善できることはないか考えてみましょう。



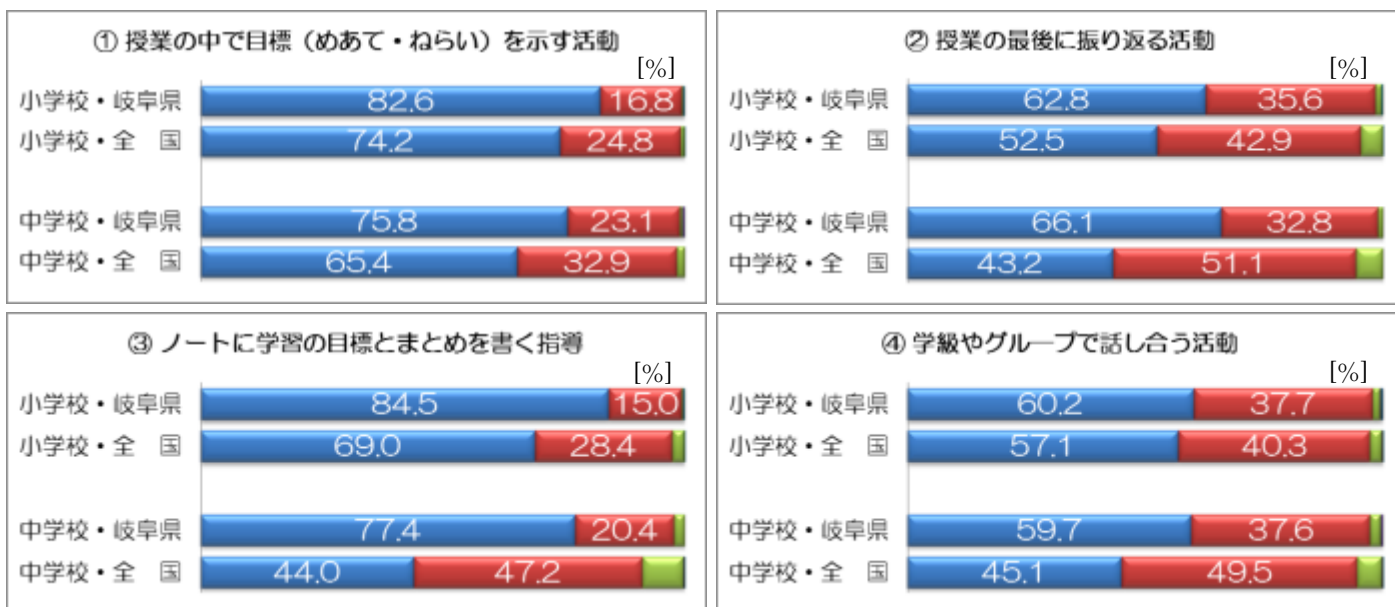
1 学校質問紙の回答状況の全国との比較

全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査において、岐阜県では以下の質問において、肯定的に回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

- ①授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れる。
- ②授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる。
- ③授業で扱うノートに、学習の目標とまとめを書くように指導する。
- ④学級やグループで話し合う活動を行う。

岐阜県の回答状況と全国の回答状況を比較してみましょう。

■よく行った ■どちらかと言えば行った ■あまり行っていない ■全く行っていない ■その他・無回答

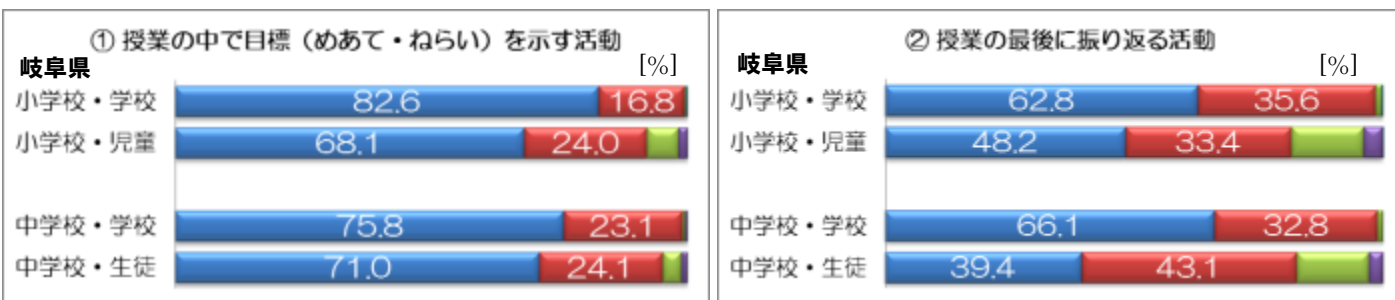


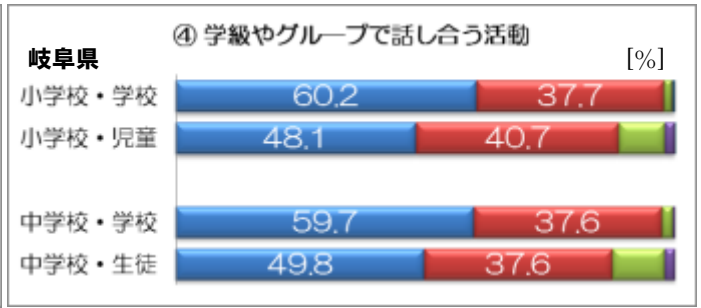
上記の4つの質問について、肯定的な回答をする学校の割合が、岐阜県は小学校も中学校も全国を上回っています。では、同様の質問に対して、岐阜県の児童生徒はどのように回答しているのでしょうか。



2 学校質問紙の回答状況と児童生徒質問紙の回答状況との比較

■よく行った ■どちらかと言えば行った ■あまり行っていない ■全く行っていない ■その他・無回答

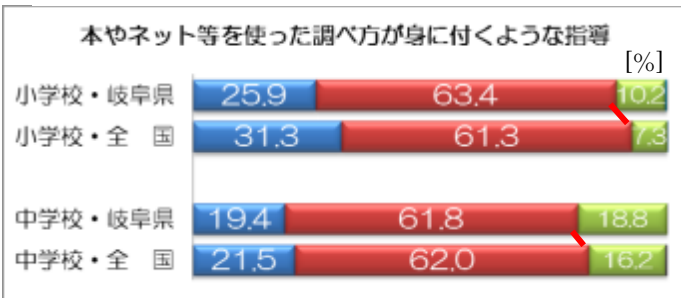




上記の学校質問紙の質問について、児童生徒質問紙の同様の質問に対する回答と「ずれ」があることが分かります。先生はやっていると思っても、そうは思っていない児童生徒がいる要因を考えることも、指導改善の在り方を探る上で大切です。

3 更なる指導改善に向けて・・・

■よく行った ■どちらかと言えば行った ■あまり行っていない ■全く行っていない ■その他・無回答

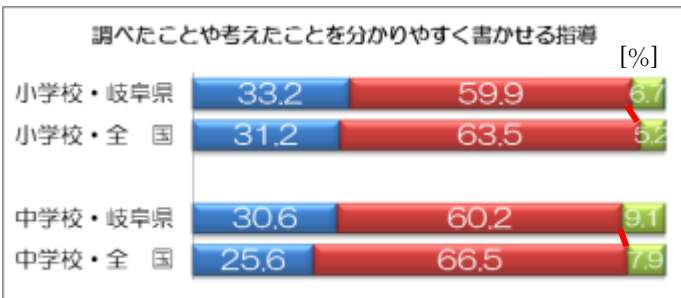


左の2つの質問に肯定的に回答した学校の割合を全国と比較したときに、小・中学校ともにやや下回っていることから、指導改善のヒントが考えられます。

一人一人の学びをより質の高いものにできるように、本やインターネット等を使った資料の調べ方を指導したり、調べたり考えたりしたことを文章に書かせる指導を行ったりすることが考えられます。

調べたり考えたりしたことを文章で分かりやすく話したり書かせたりすることは、次のような見届けができることにつながります。

- ①どの程度その子が理解しているのか。
- ②どのように既得の知識と相互に関連付けてより深く理解しようとしているのか。
- ③どのように情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりしているのか。



コラム

■ 4月から、新学習指導要領の先行実施・・・

新しい学習指導要領の趣旨を全職員で理解し、新しい時代に求められる資質・能力が育成できるようにしましょう。

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
学習指導要領	■ これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力や学びの在り方を示した新しい学習指導要領が全面実施となる。(小学校：平成32年度，中学校：平成33年度)				
		先行実施(小学校)	先行実施(中学校)	全面実施(小学校)	全面実施(中学校)
特別の教科 道徳	■ 考え、議論しながら自己の生き方を見つめ、考えを深める「特別の教科 道徳」が全面実施となる。(小学校：平成30年度，中学校：平成31年度)				
	先行実施(小学校)	先行実施(中学校)	全面実施(小学校)	全面実施(中学校)	